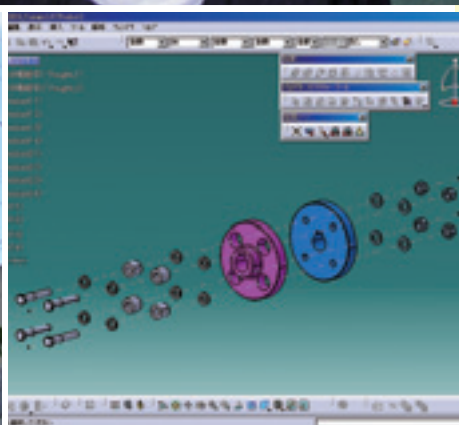


休職から職場復帰を経て、 CADエンジニアとしての雇用を継続

株式会社サムズインターナショナル（沖縄県中城村）

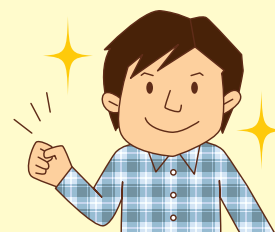
キーワード

- 1 支援機関との連携
- 2 職場復帰
- 3 リワーク支援
- 4 勤務時間の配慮
- 5 相談・コミュニケーション
- 6 職務遂行
- 7 ジョブコーチ支援



精神障害者雇用の経緯

5年前にCADエンジニアとして雇用したHさん(男性)。他県に赴任したが、他県での不慣れな生活や単身赴任による孤独感等から精神的に悩むようになり、休みが増えた。その後、病院で精神的疾患と診断され、休職する。約2年間の休職期間を得て、復職。



事業所の概要

沖縄県では数少ないバイリンガルIT企業。東京都にも事業所がある。ハワイの学校から社員を採用する等、外国人や留学経験のあるバイリンガル・スタッフを基盤として、主に日本に進出している外資系の会社（特に金融系や通信系企業）にて開発や運用のサポート業務を行い、順調に業績を伸ばしている。さらに、新しい分野では、3次元CAD（CATIA等の機械設計CAD）にも力を注いでいる。

主な事業内容

情報サービス業

精神障害者雇用状況

■従業員数：56名
▶うち精神障害者

1名

従事作業

CADエンジニア

取り組みの概要

詳細は 44 ページより紹介▶

キーワード	改善前の状況	改善内容	改善後の効果
1 支援機関との連携	休職中の居住地が他県（熊本県）にあり、どのように復職に向けた相談を始めたらいかがわからなかった。	熊本障害者職業センターと、事業所所在地にある沖縄障害者職業センターを活用した。	改善策 1 熊本県から沖縄県に戻り復職を果たすまで、支援が途切れることなく、復職に向けた取り組みがスムーズに進んだ。
2 職場復帰 3 リワーク支援	本人、事業所双方に復職に対する不安が大きかった。	リワーク支援（P7 参照）を活用した。	改善策 2 復職に向けて徐々に体力や気力を回復することができ、また事業所も本人の様子がわかり、適切なタイミングと条件で復職を果たすことができた。
4 勤務時間の配慮 5 相談・コミュニケーション	復職にあたって、本人の働きやすい環境を整える必要があった。	勤務条件の調整、社内における支援者の専任等を行った。	改善策 3 復職にあたって不安を軽減することができた。
6 職務遂行 7 ジョブコーチ支援	復職後、意欲が先走る、がんばり過ぎてしまう、整理整頓がうまくできない等の状況が見られた。	ジョブコーチ支援（P7 参照）を活用し、仕事の内容及び進め方の整理や、整理整頓に関する支援を行った。	改善策 4 適度に仕事を行う姿勢、整理整頓等が徐々に身についた。

INTERVIEW

企業の声



▲Hさんの業務面のサポート役を務める。

●事業推進本部 津田 泰志さん

当社として初めてのケースで、どのように対応したらよいかわかりませんでしたが、熊本及び沖縄障害者職業センターの支援を得て、本人の状況や対応方法がわかり、復職に向けて具体的に取り組むことができました。また、本人は何か困ったことがあっても自分からなかなか言えないタイプですが、ジョブコーチを通してだんだん言えるようになり、よかったと感じています。



改善策
紹介リワーク支援やジョブコーチ支援の活用で本人、
会社の不安を解消、段階的に職務復帰を果たす改善策
1

1 支援機関との連携

2つの県の地域障害者職業センターを活用し、
連続した支援を得る

雇用後に調子を崩し休職することになったHさんは、しばらくの間、熊本県で生活することとなった。休職して約1年経った頃、復職に対する焦りや不安が見えてきた。この間、Hさんから月1回程度連絡をもらうようにしていたが、沖縄県に戻って復職することに向けて、どのように準備を進めてよいかわからなかった。その頃、主治医から本人に対し、熊本障害者職業センターの情報提供があり、本人が相談のために出向いたことがきっかけとなり、以後熊本障害者職業センターと係わりをもつようになった。熊本障害者職業センターの障害者職業カウンセラーから時折メールでHさんの様子について連絡が入るようになり、Hさん自身からの連絡と合わせて、Hさんの様子がタイムリーにわかるようになった。

その後、Hさんは沖縄県に戻ることとなり、沖縄障害者職業センターの利用を開始。Hさんと沖縄障害者職業センターの障害者職業カウンセラーを交え、復職に向けた具体的な相

Hさんが作成した画面▶



◀個別に相談を行う際に利用している部屋

談を開始した。

全都道府県で支援を展開している地域障害者職業センターを利用することで、熊本県で得られていた支援が沖縄県でもスムーズに引き継がれ、両県で連続性のある支援を受けることができ、復職に向けた具体的な取り組みにつながった。

改善策
2

2 職場復帰

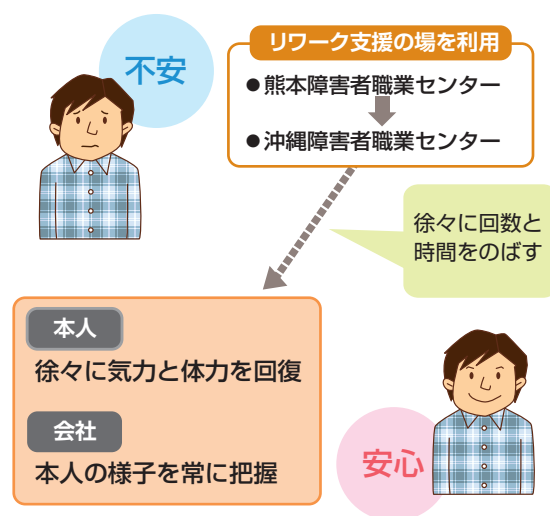
3 リワーク支援

リワーク支援の活用

熊本障害者職業センターと沖縄障害者職業センターにおいて、リワーク支援の場を活用。具体的には、復職に向けた生活リズムを取り戻すことを目的に、センター内で行われている講座等のプログラムに週に2～3日、それぞれ半日程度通うことから始め、徐々に回数と時間を伸ばした。また、同じように復職を目指す他の利用者の人達とグループで意見交換を行うプログラムにも参加する等、他者とコミュニケーションをとることも目標とした。

一方、Hさんに「エンジニアとしての技術のブランクを取り戻したい」という強い希望も見られ、熊本県にいる間に、企業が無料で行っている異業種交流会のCAD（機械設計）講習にも参加。技術の維持・向上にも取り組んだ。

これらの様子は、2つの障害者職業センターから定期的に伝えられ、復職の目安となった。



改善策 3



4 勤務時間の配慮 5 相談・コミュニケーション

復職に向けた条件や環境の整備を行う

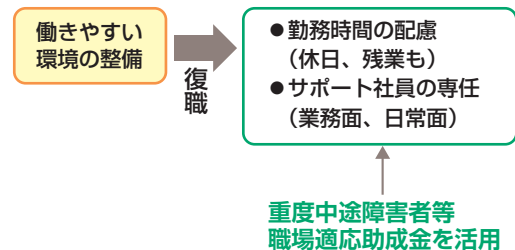
2つの障害者職業センターの支援を通して、体調の回復や技術の維持を確認することができたため、復職に向けた条件の整理を行った。無理なく復帰できるよう、Hさん、主治医、沖縄障害者職業センターを交えた話し合いのもと、次の配慮を行うことに決定。

- ◆勤務時間は復職前と同様（9時～18時）とするが、休日を1日増やす（土・日・祝日に加え、水曜日を休日とする）。また、できるだけ残業はしないよう配慮する。



- ◆社内で業務面と日常面で本人をサポートするための従業員を専任する。（業務面：直属の上司1名、日常面：総務担当の4名が交代でサポート）サポート役の従業員は、毎日声をかけ、健康状態や業務の進捗状況等を確認しつつ、Hさんが気軽に相談できるよう心がける。

また、復職にあたっては、重度中途障害者等職場適応助成金（P6 参照）を活用した。



改善策 4



6 職務遂行 7 ジョブコーチ支援

ジョブコーチ支援を活用し、適切に仕事を行う体制づくりや、整理整頓に取り組む

復職後、CATIA技術者育成のための講師として業務に従事したが、意欲が先走り、また他の従業員へ負担をかけまいとして1人でがんばりすぎて行き詰まってしまう、精神的に不安定になる状況が見られた。また、業務に集中し過ぎて、データや書類の整理がうまくできずに、かえって非効率になってしまいう状況も見られた。

社内のサポート役を中心に相談・助言を行うことで対応してきたが、どのように対応したらよいかわからない場面もあり、なかなか根本的な改善が図られなかった。そこで、沖縄障害者職業センターの障害者職業カウンセラーと相談。一定期間で集中的に課題の整理・改善を図るため、ジョブコーチ支援を利用することとし、ジョブコーチの助言のもと、主として次の取り組みを行った。

- ◆1つの業務に集中しすぎて行き詰まることを避けるため、講師の業務に加え、Hさんの趣味でもある機械整備に

関連する「パソコンの解体・組み立て」を行うこととし、適度に気分転換を図ることができるようにした。

- ◆整理整頓をスムーズに行うため、USBメモリとファイルを使って、データや書類をカテゴリー別に整理・保管するよう助言した。

この結果、適切なスケジュール管理や整理整頓ができるようになり、精神面の安定、業務の効率化につながった。



◀書類を整理・保管する棚